

事例 2

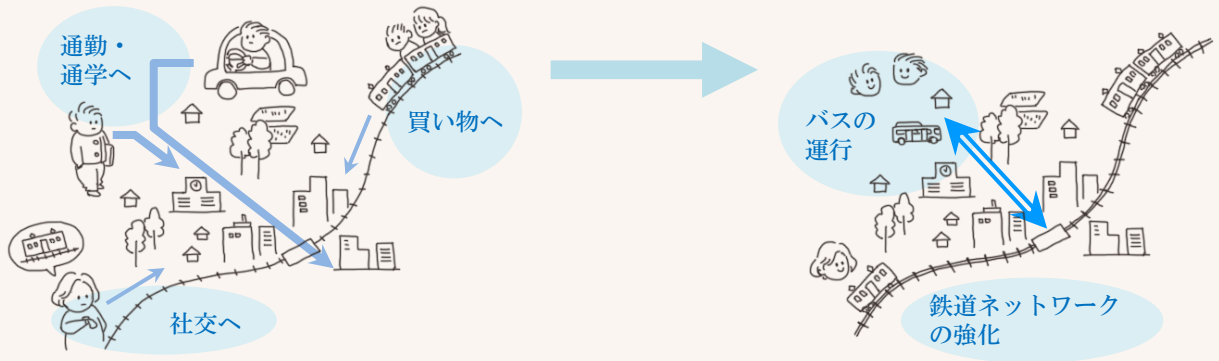
都市計画マスタープランや立地適正化計画での拠点選定

パーソントリップ調査のデータでは、どのような人（隣接市居住者、若者、高齢者など）が、どのような目的（職場、買い物、社交など）で拠点に集まっているのかが分かります。

都市計画マスタープランや立地適正化計画での拠点の選定や、拠点の性格からみた役割分担の検討に活用できます

拠点に来る人の
後背圏や特性がわかると……

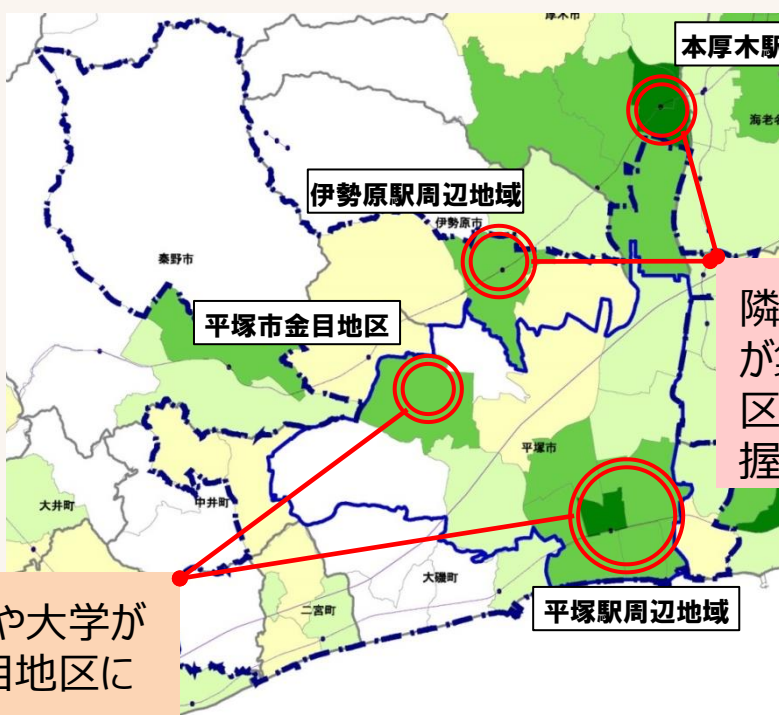
拠点へのアクセス交通の強化や、
必要な施設等の検討に活用できます



— PTデータからわかること ① —

平塚駅周辺地域や、平塚市金目地区、伊勢原駅周辺地域、本厚木周辺地域が通勤・通学の拠点になっています。

着ゾーン面積あたり通勤・通学トリップ数



隣接地域にも人が集まっている地区があることが把握できる。

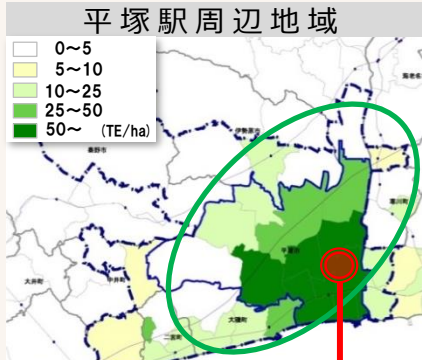
平塚駅周辺や大学が立地する金目地区に集まっている。

資料：第5回東京都市圏パーソントリップ調査より作成

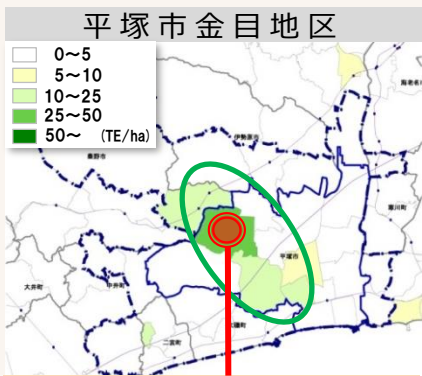
0~5
5~10
10~25
25~50
50~ (TE/ha)

— PTデータからわかること ② —

平塚駅周辺地域には、市全域に加えて東海道線沿線から通勤・通学者が集まっています。
 平塚市金目地区には、南北の県道62号沿道地区から人が集まっています
 平塚駅周辺地域と市内各地域のアクセス、平塚市金目地区と県道62号沿線地区のアクセス手段を確保する等の検討に活用できます。

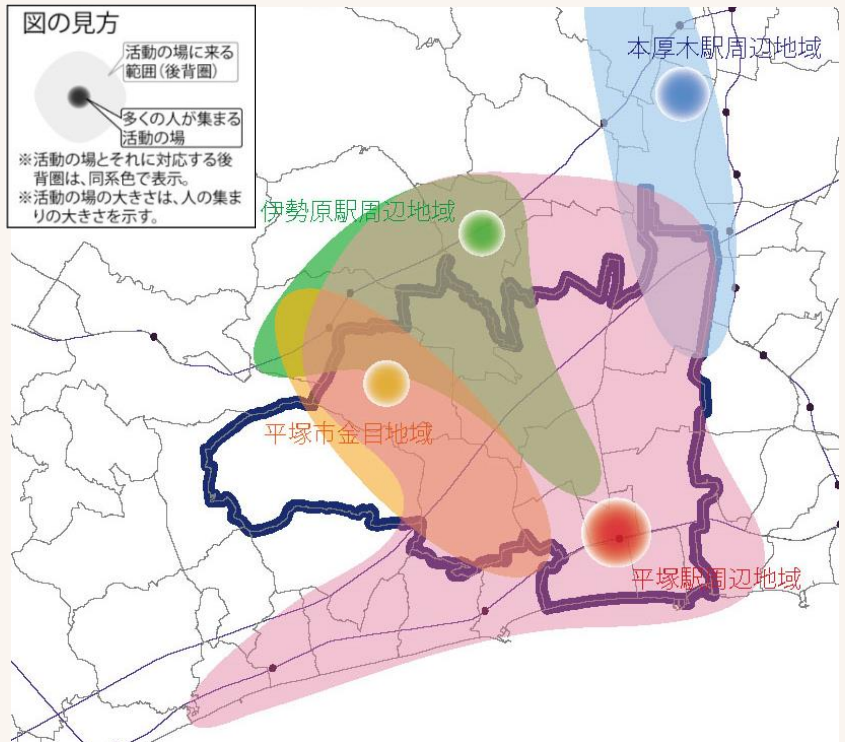


市全域に加えて、東海道線沿線から集まっている。



南北の県道62号沿線地区から人が集まっている。

通勤・通学目的の居住地の分布



資料：第5回東京都市圏パーソントリップ調査より作成

— PTデータからわかること ③ —

同じ都心拠点でも大宮・さいたま新都心は、“通勤・通学”、浦和は“買物”での利用が多いことが分かります

各拠点の特性を活かしたまちづくりを進め、都心拠点間で機能分担を行うことが必要です。

拠点へ集中するトリップの目的構成

拠点的種類	通勤・通学目的		買い物目的		通院目的		その他私用目的		
	(TE/ha)	(順位)	(TE/ha)	(順位)	(TE/ha)	(順位)	(TE/ha)	(順位)	
都心	大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区	210.0	1	93.7	2	13.6	3	99.2	2
	浦和駅周辺地区	189.3	2	133.0	1	17.1	2	99.8	1
副都心	日進・宮原地区	41.1	9	28.1	7	3.7	10	20.5	10
	武蔵浦和地区	62.8	5	27.4	8	4.8	8	33.2	5
	美園地区	9.5	27	5.5	26	0.4	28	8.3	25
	岩槻地区	16.7	25	10.6	19	3.4	16	10.8	20

資料：第5回東京都市圏パーソントリップ調査より作成